

文化資料室ニュース

第6号 2008年12月・札幌市文化資料室発行

文化資料室
企画講演会

「記録をつくる 記録をのこす」

講師
仲本和彦氏

受講レポート

(文化資料室 中村沙織)



平成 20 年
9月22日、当
文化資料室の
企画講演会と
して、沖縄県
公文書館の公

文書専門員である仲本和彦さんから「記録をつくる 記録をのこす - 日本・アメリカ・沖縄の記録から見えてくるもの」をテーマに講演していただきました。

仲本さんは9年間にわたってアメリカに保存されている沖縄関係資料の所在調査と収集に従事された経験があり、また、数年前から公文書館の本務である“記録管理”の法整備について必要性を説かれてきた方です。札幌市では現在、公文書館開設に向けて基本構想検討委員会を立ち上げたばかりで、今回の講演会は主に公文書館関係職員に向けて企画しました。その概要について、個人的な感想を交えながらご報告いたします。

アメリカの記録管理

米国立公文書館は膨大な資料を所蔵しており、沖縄関係資料だけみても、メリーランド州の新館にある5万点の簿冊の他、写真や地図など多岐にわたります。アメリカでは手書きのメモや電話記録でも政策決定の過程がわかるものは保存しなければならない、と法律や規程で定められているそうです。一例として、米国立公文書館が所蔵している琉球列島米国民政府第3代高等弁務官ポール・W・キャラウェイが部下に宛てたメモのコピーが示されました。キャラウェイは沖縄が昭和36年に金融危機に直面した際の沖縄における最高責任者であり、彼が残した沖縄関係ファイルには他にも手書きのメモが作成順に収められていて、当時の内部のやり取りがわかるようになっているとのことです。

沖縄の記録管理

県が作成した文書は、保存期間が満了すると一部を除いて公文書館に移管されることになっています。ところが、沖縄は米軍基地問題など重要な懸案を抱える地域であるにもかかわらずそれらに関する文書の移管率が少ないのだそうです。アメリカと比較してなぜそのような違いが出てくるのか、それは「記録の範囲」の差にあるようです。

日本とアメリカの違い

日本では、起案・決裁文書以外の参考資料を保存するかしないかは担当者の判断に任されています。そのためアメリカで重要文書として取り扱われる資料が、日本では廃棄されることもあり得るということです。では、現在の札幌市はどうかというと、公文書目録を作成する担当職員によると、パソコンで打ち直したと思われるメモ紙の添付や、担当者間のやり取りが書き込まれた文書も一部にはあるとのことでしたが、必要なもの全てが残っているわけではないようです。

行政上の意思決定である起案等はもちろん重要な文書ですが、さまざまな参考資料が加わることで「なぜこうなったか」という、決定に至る過程を知ることができるのです。米国立公文書館がたくさんの資料を所蔵している理由の一つは、そういった記録をのこすことを重視しているからだとわかりました（現在、日本でも行政文書の作成から移管までの文書管理を体系化させるために、「文書管理法（仮称）」の制定が検討されています）。

この講演会で、記録管理に関するアメリカの先進的な事例や沖縄県ひいては日本の公文書館が抱える問題点を知ることができ、同時に、市の政策という、市民の皆さんの生活に直接関わる大事な決定をした根拠や過程を、記録し保存していくことがいかに大切か、あらためて確認できたと思います。

企画展示紹介 『札幌のパノラマ写真と札幌紹介の役割』

展示期間：平成20年11月19日（水）～21年1月29日（木）

明治期、札幌の街を紹介するためにパノラマ風に写真を撮影した。開拓使時代には、明治4年秋に撮影した札幌の西部・東部など3組、5年に撮影したもの、6年に開拓使本庁舎から撮影したもの、14年の遙拝所から撮影したものがある。その後も、23年に北海道庁庁舎から撮影したもの、『北海道移住案内 第五』（明治30年刊）掲載の「札幌全景」がある。さらに明治末～大正初めに札幌区役所や札幌郵便局から撮影した6組のパノラマ写真がある。大正2年の『絵だより札幌全景』を中心に札幌パノラマ写真を紹介する。

1. 明治末のパノラマ写真

明治42年9月に札幌農学校の新渡戸稲造らが出版した『温故写真帖 第一集 札幌』の「現今の札幌」は、区役所屋上から撮影したパノラマ写真である。明治44年7月に発刊した『札幌区史』の口絵は、同年5月に札幌区役所屋上から撮影したものである。明治44年7月に出版した『温故写真帖 第一集 札幌』（再版）の「現今の札幌」は、43年に完成した札幌郵便局屋上から撮影したパノラマ写真に取り替えられている。発刊年はハッキリしないが、『札幌市街全景』という8枚の絵はがきは、45年8月に開業した馬車鉄道の西2丁目線路がない、大通西3丁目の建築中の家が「現今の札幌」では別な家があるなどから、明治44、5年頃、郵便局屋上から撮影したものである。明治末の2～3年に確認できるだけで4種のパノラマ写真が撮影紹介された。

2. 富貴堂の『絵だより札幌全景』

大正2年12月に札幌の書店富貴堂が『絵だより札幌全景』を発売した。この絵だよりは、札幌郵便局の屋上に数十尺の台をおいて撮影したパノラマ写真で、折りたたんで封筒に入れて販売された。「一年一度のお正月に可成り軽便に札幌の大観を「絵だより」とせん」と広告にうたわれている。この絵だよりは人気で、大正2年12月末には再版が発売された。その広告では、「親戚なり知己なり行先を書けば二銭でドコ迄も飛んで行くという仕掛 時節柄中々気が利いて居る」と評されている。

市民から寄贈されたパノラマ写真に『絵だより札幌全景』とほぼ同様なものがある。一見すると同じものに見えるのだが、詳しく較べると違いが分かる。例えば、時計台の時間が、2時頃と3時頃とちがう。人の数や影の方角が違う。西4丁目通を走る馬鉄の位置が違う。大正2年10月17日に開館したエンゼル館は、不明確だが建設用の足場が減っているように見える。この2つは明らかに異なるものである。エンゼル館の足場が本当に減っているのなら、2つとも開館1～数日前の足場が解体された日に撮影されたものである。

3. パノラマ写真と札幌観光の醸成

以上の他に、維新堂が明治41年にはがき2枚形6枚組『札幌全景』を発売した。その宣伝文句は、「内地二向ツテ札幌ヲ照会スルニ是レニ及ブモノ未ダ嘗テ見ズノ札幌ヲ知ラザル人ハ如何ニ是レヲ見テ其莊都ナルニ驚カンノ是レヲ見タル人士ハ忽チニシテ来道スルニ逡巡セザルニ至ラン」と観光案内と言いえる。次いで札幌写真版印刷所が明治42年10月に9枚続きの絵はがき『札幌全景』を発売した。「全市座ながらに見られ内地土産に好適品なれば目下売行さかなり」と観光案内風に新聞報道された。この2種は、まだ特定できていない。しかし観光案内的な要素を持っているように思われる。

出版物に掲載された明治42、44年の3つのパノラマ写真は、札幌を紹介するためのものである。しかし明治40年の札幌大火を考慮に入れると、復旧なった札幌の紹介をかね、人々を誘う意味も含まれるだろう。『札幌市街全景』や『絵だより札幌全景』は、当時の絵はがきブームを利用して札幌の紹介をしつつ札幌へ人々を招く意味を持つ。一般に札幌を観光地として案内するのは、北海道博覧会を開催した大正7年といわれる。しかし明治30年代まで移住地案内であった札幌の紹介は、明治末にパノラマ写真や絵はがきを通して観光案内ともいえる活動にかかわっていたように思われる。

（文化資料室 榎本洋介）

* 以上のように考えて展示を作成しました。是非御覧ください。

歴史資料整理員だより

ご存知ですか？

「デジタル・アーカイブ」



私が歴史資料整理員として過ごす日々、ときおりつぶやく言葉があります。「アーカイブは民主主義の根幹である。」という言葉です。

多くの方は「デジタル・アーカイブ」という言葉を聞いて、具体的に何を思い浮かべるでしょうか。あまり馴染みのない言葉だと思います。私自身も一年ほど前に初めて聞いた言葉です。私が来たばかりの頃の文化資料室は、私文書・公文書共に確固とした目録規則、入力規則がありませんでした。未だ過度期、文化資料室独自のものを確立していこうという試行錯誤の真最中だったように思います。経験・知識が足りないなか、多くの未整理の私文書の段ボールと格闘し、新たに受け入れる公文書から記録すべき項目をデータベースに入力する日々。少しでも参考や助けになる情報はないかと探している時に、ある大学のホームページで、文部科学省選定の“社会人のためのデジタル・アーキビスト資格取得講座”の受講要項を見つけたのです。その講義科目を見ながら、自分の日々の疑問の答え、業務をつまずかせる原因と解決策が見つかるかもしれないと感じました。

冒頭言葉は、ある先生が講義中語られた言葉の一部です。「デジタル・アーキビストとして技術の習得、知識が必要である。しかし大切なことは、アーカイブは民主主義の根幹であり、アーキビストとして情報の保護と開放、活用を支える責務があるということを忘れないことです」。この教えからも分かるように、講座では、デジタル・アーキビストとしてこう有るべきという意識と実務に役立つ知識の両方を教えてもらいました。延べ22日間10教科の講座で、デジタル・アーカイブを完成させるための情報処理システムの基本を演習と共に学びました。実際の撮影・記録、パソコンソフトを使ってのデジタル化とデータベース化やホームページ作成等の実践的な演習はもちろんですが、日頃の仕事を通して漠然と理

解していたことを、筋道立てて明確に教えてもらえたことは、有難く感じました。たとえば、効果的な資料番号の付け方というごく身近で即実務に使える事柄から、「アーカイブ」「アーキビスト」の意味と役割、メタデータの記録項目の理解と選択、シソーラスの意義と構成、知的財産権等の法と倫理の対応の重大さなど、どれもみな基本的で大事なことです。

習ったデジタル・アーカイブ化の知識を利用して、文化資料室でどういうことができるだろうと自問したところ、最初に浮かんだ答えはとても基本的なことでした。貴重な所蔵資料をデジタル・アーカイブ化、データベース化し、ホームページ上で現物の資料の中身を、多くの人に自由に閲覧してもらえるようにすることです。

具体的には、第一に所蔵資料の現物の現状確認と価値判断、著作権・所有権・プライバシー等の事前調査と問題の解決。第二に映像を記録して、デジタル化とデータベース化を図る。さらに、利用者が検索しやすいよう検索の再現率の向上を目指す。詳細にいうと、記録すべき情報のカテゴリー分け、メタデータの記録項目を選び、シソーラスによる索引語の付与など二次情報をつけ、検索の際入力側と出力側との間で生ずる差を少なくする。第三に、情報の流通・活用を考える。例えば、横断検索などの新しい検索方法に対応していくことや、作成の目的や利用法など情報提示のためプレゼンテーションを活用する。文化資料室で作成したデジタル・アーカイブ自体にも著作権等が生じますから、それを侵されることなく利用を促進するためにも、法の知識と活用能力を身につけた上での管理が必要です。そしてホームページ上での資料の公開は、情報の提供と管理を継続させる必要があり、簡単なことではありません。

しかし、現実に全国の公共施設の多くで、このサービスが行われていることを考えると、文化資料室にも近い将来必ず求められるサービスだと思えます。その時に備えて、今からデジタル・アーカイブ化の計画を具体化しておくのはとても大切なことですし、私自身も今一番取り組んでみたい課題です。 (歴史資料整理員 紺野 忍)

企画展情報

『札幌のパノラマ写真と札幌紹介の役割』を開催しています！

〔開催期間：11月19日（水）～21年1月29日（木）〕

2ページに掲載の「企画展紹介」とおり、説明パネルの他、現物資料も展示しています。ぜひお越しください。

日時●文化資料室の開館日、時間（下記「利用のご案内」をご覧ください）

会場●文化資料室オープンスペース（札幌市中央区南8条西2丁目 文化資料室2階）



行事予定

行事を行っている時間帯は特別開館し、一般の方もご利用いただけます。

ジュニア・ウィークエンドセミナー 札幌の歴史探検～歴史新聞をつくらう！～

札幌の歴史に詳しい先生の話や、文化資料室にある写真・地図などを使って「札幌の歴史新聞」をつくらう！

テーマ 「冬の生活～耐えるから楽しむへ」

- 日時■ 平成21年2月7日（土）
- 場所■ 文化資料室2F 郷土史相談室
- 対象■ 小学校4年生～中学生
- 定員■ 12人（応募者多数の場合は抽選とします）
- 時間■ 10:00～12:30
- 講師■ 榎本洋介（文化資料室職員）

申込締め切り 1月29日（木）必着

＊お申込方法＊

（ジュニア・ウィークエンドセミナー）

電話、ハガキまたはEメールで下記住所へお申し込みください。ハガキ、Eメールの場合は講座名、住所、氏名、年齢、学校名、電話番号をご記入ください。

古文書講座

＊上級コース「札幌歴史ゼミナール」

- 日時■ 平成21年1月17日（土）、2月14日（土）、3月14日（土）の3日間。14:00～16:00
- 場所■ 文化資料室2F 郷土史相談室 ■講師■ 榎本洋介（文化資料室職員）
- 対象■ 市内に居住か通勤・通学する、古文書が読めて、3回参加できる方。定員10人（抽選）。

申込締め切り 1月5日（月）必着

＊お申込方法＊（古文書講座）

往復はがきに、郵便番号、住所、氏名、電話番号、年齢をご記入のうえ、下記住所までお送りください。

※)お電話での申し込みはお受けしておりませんのでご了承ください。

文化資料室 利用のご案内

開館時間 8:45～17:15 入館料 無料
 休館日 土・日・祝日・年末年始（12月29日から1月3日）
 郷土史相談室・札幌の歴史展示室がご利用になれます
 ご来館の際は公共交通機関でお越しください

交通アクセス / 東豊線「豊水すすきの」駅下車6・7番出口から徒歩3分、
 または南北線「中島公園」駅下車1・2番出口から徒歩3分



さっぽろ市
05-500-08986
20-5-315

文化資料室ニュース —— 第6号・2008年12月

発行 —— 札幌市文化資料室 〒064-0808 札幌市中央区南8条西2丁目

Tel・文化資料室事務室 011-521-0205, 郷土史相談室 011-521-0207 Fax・011-521-0210

E-mail・shiryoshitsu@city.sapporo.jp URL・http://www.city.sapporo.jp/bunkashiryō/